

河川の水質検査をしました！数値が良くなりました

環境衛生委員会では、河川等地区内5カ所において水質検査を実施しました。委員会事業として毎年実施している水質検査ですが、昨年度に引き続き、市環境アドバイザーの浅野清志先生にご指導をいただき実施しました。検査結果は以下の通りです。

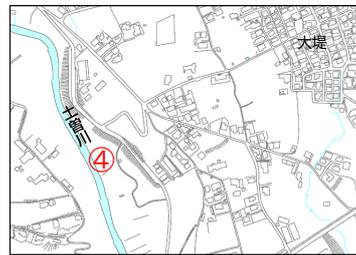
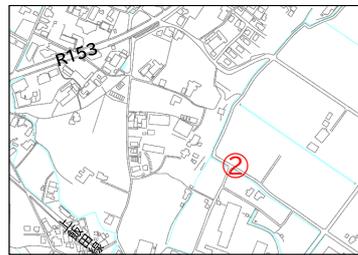
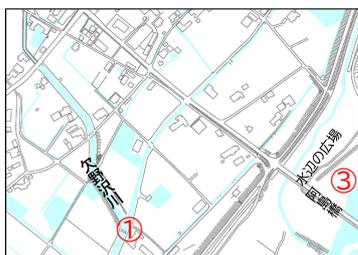
■検査結果

採取日：6月1日（水）午前10時～11時 天気：晴れ 気温：24～30℃

採取場所	PH	BOD mg/l	SS(浮遊物質) mg/l	窒素含有量 mg/l	大腸菌群数 1/ml
①欠野沢川 (中水用水路合流地点)	7.6(7.5)	1.5(2.0)	7(10)	2.5(2.7)	150(450)
②白山下	7.4(7.4)	0.8(1.4)	5(11)	2.2(2.2)	48(120)
③水辺の広場内	7.8(7.9)	1.4(2.0)	6(10)	1.4(1.3)	120(150)
④土曾川(宮崎地籍)	7.4(7.5)	0.6(0.7)	2(3)	2.6(2.2)	61(130)
⑤南大島川(高岡地籍)	7.4(7.5)	0.8(1.7)	1(2)	1.4(1.2)	19(54)

※（ ）の数値は昨年度の結果（R3.6.15 採取）

数値項目の詳細は裏面をご覧ください。



座光寺地域では、第2次座光寺地域基本構想・基本計画において、地域内の小川を汚さないように努め、清らかな水が流れ、魚の住める水質環境を保つためBOD2mg/l以下を維持することを目標に掲げています。

◆結果について（環境アドバイザー浅野先生によると）

- 環境衛生委員会や地域の方々が、河川清掃や水質検査を行うことで関心を持ち、川が汚れないようにしていることが水質に表れていると思います。
- 河川清掃をしないと秋に枯れた草が春になってから流れていき、下流域が詰まってしまう危険性があります。
- 欠野沢川の採水箇所に藻ができており、これは川の状況が良い場所にしかできません。



環境衛生委員会では、これからも地域内の水質環境が保たれるよう、水質検査を継続していきたいと思っております。

【検査項目について】

PH（水素イオン濃度）

酸性・中性・アルカリ性を示す指標。河川の環境基準は6.5以上～8.5以下。

BOD（生物学的酸素要求量）

BODが高いということは溶存酸素が欠乏しやすいことを意味し、10mg/l以上では悪臭の発生の障害が現れ始める。

SS（浮遊物質）

水中に懸濁している不溶解性の粒子状物質のことで、粘土鉱物に由来する微粒子や、動物性プランクトン及びその死骸、下水・工場排水などに由来する有機物や金属の沈殿などが含まれる。

窒素含有量

窒素は空気や土などに含まれており、雨や地下水や川の水に溶け込んで流れていく。町の中を流れている川には家庭や工場からの排水が、田んぼや畑の近くを流れてきた川にはたくさんの肥料が流れ込んでくる。

大腸菌群数

大腸菌群は一般に人畜の腸管内に存在するもので、これが水中に存在することはその人が人畜のし尿の汚染を受けた可能性があることを意味する。

🍃 採水日当日はこんなことをしています 🍃

浅野先生からのお話を聞きつつ、現地5か所をまわって水温・気温・天候・採水日時を確認し、容器へ水をいっぱいに汲んで中部公衆衛生へ提出しました。

